■本町の畜産施策は

Q 口蹄疫対策を

A 県防疫マニュアルを基に

熊谷 兼樹 議員

宮崎県で発生した口蹄疫は、畜産農家をはじめ、地域経済や住民生活に深刻な影響を与えました。

危機意識が高まっているいま、町として対策を検討するべきです。

山碕 英樹 町長

本町は県防疫対策本部の指揮下で協力をします。

現在、独自の対策として

○飼育農家台帳の整備

○埋却地の選定

○埋却作業方法の連携

等を検討しています。

Q 全共対策基金の使途は

A 協力農家への価格補償に

熊谷議員

現在、全共出品対策基金として3百万円ありますが、価格対策を含め、その使途について明確に示されていないため、対象農家は不安を抱いています。周知を徹底し、不安を払拭するべきではないか。

山碕町長

この基金は、対象子牛の販売価格が市場価格より低い場合、補填するため措置したものです。農家に徹底していないとすれば、遺憾に思います。

これまで以上に関係者と協議し、趣旨を徹底していきます。

Q 雌子牛への価格補填を

A 関係者と協議して

中央家畜市場セリ風景

熊谷議員

昨年創設された子牛価格補填事業は、和牛飼育農家の生産意欲低下を防ぐ効果があったと評価しています。

しかし、現行制度では、総平均が補填基準のため、発動されません。性別による価格差が10万円あり、安値の雌子牛に価格補填を望む声があります。

運用基準の見直しで対処する考えはないか。また、4月以降の補填状況はどうか。

山碕町長

子牛価格補填事業を創設した背景上、総平均での運用が良いという判断もあります。

しかし、雌子牛の価格について、飼育農家の切実な声があるとすれば、制度に矛盾をきたさない手法を、関係者と協議します。

4月以降の補填状況は、総平均価格が若干上昇したためありません。

■林業振興策

Q 林業ビジョンの検討を

A 森林整備計画で振興

熊谷議員

政府は、森林・林業再生プラン推進本部を設置し、本年度末には、基本計画の見直しが行われる予定です。

この機会に、本町でも最大の資源である山林を活用するため、林業の6次産業化ビジョンを検討するべきです。

山碕町長

林業への関心が低下している中、低炭素社会づくりへの体制整備が必要で、期待は高まっています。

また、財源は国が負担するべきで、森林環境税の創設を働きかけています。

町では、早期に森林計画を見直す中で、林業振興を図ります。

9月定例会 町政を問う 一般質問

Q ナラ枯れ対策は

A 薬剤注入で対処

熊谷議員

今年も、町内各所で「ナラ枯れ病」が発生しています。60万円の対策費でどう対処するのか。

山碕町長

現在、道路からの目視で3百本弱を確認しています。被害の拡大防止のため、薬剤注入で130本程度が処置できます。

しかし、これは対処療法ですので、基本的には、広葉樹の更新を進めるため、作業体系の整備、有効利用の研究等を進め対処します。

Q 橋梁維持対策を問う

A 今後とも橋梁調査を

永井 章議員

道路整備は、年次計画により改良と舗装が進みました。しかし、整備済み橋梁が老朽化したとして、国は地方自治体が管理する橋を調査しました。その結果、通行止めや車両の重量制限等多数あったと指摘しています。

町では橋梁の調査予算を計上していますが、実態はどうか。

山碕 英樹 町長

平成21年度予算で、橋梁の建設年次の古いものから18カ所を調査しました。高欄の損傷補修と、とりかえる個所については計画的に実施、床板の異常があるところは経過観察とし、一部腐食のある橋は、利用頻度と利用者が限定されているため、対応は必要でないと考えます。また、今後継続して150カ所を調査します。

老朽化した頓原地区内の橋

本町の橋梁は265橋あり、自動車通行不能の橋は50カ所、内26カ所は災害復旧工事で施工されたため幅員がせまく、自動車の通行が不可能です。

重量制限をする必要のある橋は現在ありませんが、今後の調査で補強工事が必要な場合、財源を考えて実施します。

Q 教職員住宅の老朽化対策は

A 解体費用を検討

永井議員

昭和30年ごろから40年代にかけては、冬期間の積雪、除雪機械の不足、道路整備の遅れで、教職員は下宿生活でしたので町は住宅を建設し対応しました。

その後の道路整備により、教職員も次第に通勤となり、八神連担地にある3戸と角井児童館裏の1戸の住宅は空き家となりました。木造建築のため老朽化もひどく修理も困難です。

解体し、跡地利用の考えはないか。

安部 亘 教育長

志々小学校の教員住宅は、建設後40年近くになります。近年道路整備等により志々小学校に赴任する教職員は入居していません。建物も老朽化し、入居となれば修繕費用が相当かかりますので、今後希望がなければ、解体すべきと考えます。

また、角井児童館裏にある1戸の建物は、昭和43年に建築されたもので、角井分校廃校以来使用されていません。

全体の建物を解体すると相応の費用もかかり、跡地利用も含め、財政・管財担当と協議していきます。

八神教員住宅